

年頭のご挨拶

奈良 21 世紀フォーラム理事長 森本 公誠

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には新春を迎えられて、益々ご清祥のことと心からお慶び申し上げます。昨年は世の中の暗さをいささかでも変えたいとの国民の願望が反映したのか、政権交代が起こり、民主党政権が生まれました。期待が大きかっただけに、それから 3 ヶ月余り、鳩山首相の日々刻々の動静がもし出すギャップに、国民ははや失望しつつあるのか、支持率は急速に下がっています。それでも、これまでの政治と違う何か新しさを国民は求めているのでしょうか、一年を振り返る年末恒例の清水寺貫主の墨書も「新」が選ばれました。



さて、いよいよ今年には平城遷都 1300 年の記念すべき年、数年前からカウントダウンを始め、奈良県民はむろんのこと、他県の人々でも何か大きなイベントが行われるらしいと期待を寄せてきた年がとうとう来てしまいました。それなりの行事がさまざま催されるでしょうし、当 NPO 法人でも行事に参加する企画もあり、しかるべき貢献を果たしたいと、担当者は鋭意努力をしています。

それにしても、今年 2010 年が記念の年に当たるというだけでは、ただ一過性の行事で終わってしまいます。それでは 1300 年前のわれわれの先祖が、ここ奈良に日本の都を置き、どのようにして国家を治め、当時の国際情勢にどのように対処したか、その苦難の努力が生かされないのでは、と思えてくるのです。つまり、平城京の時代に生きた人々の歴史の重みを少しでも感じるこそが、県民のみならず、現代に生きる日本人の務めではないかと思うのです。それは必ずや、自信を失いつつあるといわれる現今の日本人に資するに違いありません。

平城京の時代というのは、中国の唐の律令制を手本にしながらも、日本独自の「大宝律令」という法を制定し、日本で初めて法に基づく政治、いわゆる法治国家の樹立を目指したという点で画期的な時代です。法治という意味では、現代にもつながる考え方があります。

たとえば、われわれに身近な問題でいえば、高齢者や心身障害者の保護という政策があります。当時、心身障害者はその障害の度合いに応じて残疾・廢疾・篤疾の 3 段階に分けられ、より重い廢疾・篤疾には税金が一切掛からず、残疾は調という税金が正規の男子の半額、徭役は全額免除でした。また超高齢者や重度の障害者に対する介護の優遇措置というのもあって、息子や孫が付き添った場合、80 歳の高齢者もしくは篤疾者では一人の介護者だけ、これまで介護者本人に掛かっていた税金が免除され、それが 90 歳ならば二人まで、100 歳ならば五人まで免除となりました。なお介護者は近親者を優先し、もし適当な血縁者がいなければ、一般男子でも可というのです。娘が介護者となっても、税金は関係ありません。当時女性は課税の対象外でしたから。これらは戸令という法律の第 5・7・11 条に定められていることです。会員の皆さまは当時の法律を如何ように思われるでしょうか。

事業の進捗状況と今後の活動

1. 「光明皇后1250年遠忌法要奉納イベント」について

光明皇后1250年遠忌法要に際して、近畿日本鉄道が復元制作し東大寺に奉納する行事に当フォーラムが協力する計画については、聖武天皇と光明皇后の衣裳等の監修に森本理事長、猪熊理事及び武部委員が担当し概ね予定通り順調に進捗しています。

2. 「万葉けまり」の事業展開

(1) 「万葉けまり」とは

京都蹴鞠保存会会員が興じる公家蹴鞠はサッカーのルーツとしてサッカーの母国イングランドFIFAサッカーミュージアムで紹介されていますが、蹴鞠は日本書紀皇極3（644）年の記述が初見です。

2002年ワールドカップの日韓両国開催を機に当フォーラムは日本書紀記述の蹴鞠を推作復元することになり、「蹴鞠の研究者」として知られる渡辺融東大名誉教授、古代の服飾史に詳しい猪熊兼勝京都橘女子大教授、ワールドサッカーをずっと追いつけてこられたスポーツジャーナリスト賀川浩さんのお三方を特別委員として招き蹴鞠製作委員会を発足させ蹴鞠を推作復元、京都の蹴鞠に対して奈良の蹴鞠として「万葉けまり」と命名、2002年5月談山神社で奉納披露しました。

(2) 平城遷都1300年祭に向けて

日本書紀の史実を検証・発掘、当時の文化を甦らせることは奈良県の大きな財産の活用であり「万葉けまり」をその一つとして展開していきます。

① 平城遷都1300年祭県民活動支援事業としての展開

- ・ 平成22年は県内で数回開催予定

② 平城遷都1300年祭参加

- ・ 奈良県まるごと歴史体験博磯城郡フェスティバル

期日 平成22年 3月 会場 田原本北小学校（予定）

- ・ 平城宮跡事業（古代行事の再現）

期日 平成22年11月6日（土） 会場 第1次大極殿正殿前庭

(3) 平城遷都1300年祭県民活動支援事業「万葉けまり」の披露

～平成21年10月31日・11月1日 奈良公園登大路園地～

両日は「正倉院展」「興福寺国宝特別展・お堂で見る阿修羅」で賑わう場所での披露、訪れた観光客に万葉けまりのルールや復元経緯をまとめたリーフレットを配布しました。遠来の観戦者も興味を示され、鞠などの用具、鞠場（コート）の資材等に質問を受けるなど成功裡に終えることが出来ました。



3. 書の文化の伝承

「第3回書くことは楽しい in 奈良」～筆で書く楽しさ伝えよう～を開催

書は3千年の歴史があり、筆、墨、紙の文房三宝の技術に支えられて発展してきました。書き言葉の記号として書が書かれている間に、書は高い美術であると認められてきた歴史があります。

この企画展を通じて奈良の伝統産業である墨や筆の魅力を感じ、IT社会においても書が私たちの生活に生き続け、新しい魅力を生み出し続けることを確信していただきたいと思えます。

今回は平成22年10月2日から3日まで、平城遷都1300年祭奈良市市民連携事業として開催予定の「書くことは楽しい in 奈良～大仏さんにラブレター～」のプレイベントと位置付け、出展者も増えています。御来場をお待ちしております。

主催者 NPO法人 奈良21世紀フォーラム

協力 奈良女子大学書道部、デジタル書作家協会、奈良製墨協同組合、奈良毛筆協同組合

開催日時 平成22年2月19日（金）～2月21日（日）

11:00～18:00（最終日は15時まで）

場所 なら工藝館1階ギャラリー 奈良市阿字万字町1-1

<http://www.eonet.ne.jp/~naramachi/>

企画内容

- ・奈良にゆかりのある文房三宝をめぐる匠の技と文化の紹介
普段目にすることができない書道具の展示
(実用性だけでなく、美術品としても価値のあるもの)



・作品展示

- 「筆で書く楽しさを味わえる作品」
大学書道部他有志、奈良市内中学高校書道部、一般県民の作品。
- 「筆文字と IT とのコラボレーションーデジタル書の作品」



筆文字の筆勢、字形、墨色などが持つ独特な味をCGアートと融合させることで新しい芸術性を生み出すデジタル書の展示



・体験コーナー

「デジタル書」の制作実演

筆文字とCGアートとのコラボレーション技術の演出

